KOWA COMPUTER

■出版ERPシステム(販売管理システム) ㈱小峰書店

出版システム

出版産業の最新マーケティング情報を発信

BBB Bunkatsushin Book 3 Business 2018.10

■学校向け販売の変化に対応

学校向け販売の変化に対応

小峰書店

司書や教員へのアプローチも強化

(株)小峰書店

所在地:〒162-0066東京都新宿区市谷台町4-15 電 話:03-3357-3521 代表者:小峰広一郎 創 立:1947年6月18日 従業員:22人

学校や公共図書館への販売比率が高い小 峰書店は、一橋グループの出版ネット&ワー クスを通して光和コンピューターのシステムを 導入。倉庫会社との連動を含めて安定的にシ ステムを運用しているという。











■小・中学校向けセット商品が主力

1947年に創業した同社は、絵本からヤングアダルトに至る児 童書や小・中学校向け学習セット商品など子ども向けに幅広く出 版物を刊行している。年間の新刊点数は65点ほど、稼働点数は 約1000点に達する。

「学習書では小・中学校のほぼ全教科に対応したセット書品を 数多く刊行しているほか、ロングセラーとなっている『うさぎのくれ たバレエシューズ』(安房直子文/南塚直子絵)や、『ひろしま のピ カ』(丸木俊文・絵/丸木位里協力)、『みなまた海のこえ』(石牟礼 道子文/丸木俊、丸木位里絵)、『おきなわ島のこえ』(丸木俊、丸 木位里文・絵)、の3部作「記録のえほん」といった代表作が知ら れている。

また、近年では学習もので2016年に刊行した『はたらくじどう車 しごととつくり』(全6巻、セット本体1万3800円)が1万セットに迫る 勢いで、「これほどすごい動きは初めて」と三井修一取締役営業 部長が話すほどの売れ行きだ。

刊行から3年を経ても売れ行きが落ちないといい、小学校現場 の教員に指導を受け、文章量を絞るなど小学1年生向けに制作 したことが広く受け入れられた要因のようだ。

■オフコンの不具合で新システムを導入

現在のシステムを導入したのは2009年。それまでは個人に開 発を依頼したオフコンシステムを利用していたが、出版VANのシ ステムに不具合が発生。当時の小峰紀雄社長が親しかった小学 館・相賀昌宏社長を通して小学館グ ループの物流会社である昭 和図書に相談、応急対応で受注データを取得できるようになった 。パソコンシステムへの移行も考えていたこともあり、これをきっ かけに、昭和図書の子会社の出販ネット&ワークスを通して新 システムを導入。これが光和コンピューターの販売管理システム だった。

開発には1年ほどをかけた。それまで紙で出力していたため、 在庫表は调1回の出力で対応していたが、新システムに移行し たことで、各自が卓上のパソコンでリアルタイムに在庫を確認で きるようになるといった業務の改善ができた。

■倉庫で伝票発行

同社の販売先は学校図書館、公共図書館の比率が7~8割に 達するが、基本的に取次、書店経由で販売している。

物流はかつて自社倉庫に社員を置いて出荷業務を行い、返品 処理を出版倉庫会社の大東出版梱包に委託していたが、いまは 出荷・返品とも大東出版梱包に全面的に委託している。

倉庫にも端末を設置し、新刊配本や製本所から取次搬入する商 品以外は、倉庫で受注データを入力し、納品、伝票を発行してい

■直接アプローチ増える

学校・図書館への営業は、「児童書十社の会」に所属し、書店と の巡回販売を中心に行っていた。しかし、同社の主力商品の販売 先である学校現場の状況が、近年は変化してきているという。

以前は午前中の中休みや昼休みにも見本展示会ができたが、 教員が忙しくなったことで、巡回訪問はほとんどが放課後中心と なった。1日に訪問できる学校数も、かつての4~5校から1~校ほ どに減っている。

また、学校の司書教諭配置が進んだことで、セットものよりも単 品で選書されるケースが多くなったという。

こうした流れに対応し、出版社の倒も巡回の営業スタイルから、 直接、司書や教員にダイレクトメールを送るなどの活動に徐々に シフトしているところもあるようだ。

■システムを生かして事業を展開

「児童書十社の会」でも今年、「図書館応援プロジェクト」として、 15万円以上購入するとビッグパネル2点と各社キャラクターのスタ ンプのうち一つを送るプレゼントキャンペーンを実施。司書や教員 への直接アプローチを強めている。

一昨年も「児童書十社の会」では10進分類カレンダーを作成し て訪問校で無料で贈るキャンペーンを展開したが、「これほどキャ ンペーンを展開するようになったのはここ3年ほどではないでしょう か」と三井取締役は述べる。

こうした販売環境の変化に対応するために、これからもシステム の進化に期待している。